



いしずえ

恵那北中学校 学校だより 第 257号
発行: 令和4年10月26日(水)

◇「いしずえ」の名称は、校歌の一節「学ぶことそれは礎」から生涯学習の基礎を学ぶ生徒達の心と体の成長を願ってつけました。
◇NOは創刊号以来の通番でつけております。

質の高い教育をみんなに

校長 可知 浩幸

秋の深まりとともに、令和4年度の後期が始まりました。生徒全員がはりきって後期のスタートを切ってほしいという願いを込めて、生徒総会の場で以下のような話をしました。

「自考自築」の後期生徒会がスタートしました。生徒会長の鷲見咲和さんをはじめ、生徒会執行部、6委員会の委員長さんたちの強いリーダーシップのもと、一人一人が当事者意識をもって、「今日が楽しく明日が待ち遠しい学校づくり」をさらに推進していったほしいと願っています。

昨年度、恵那北中学校は、岐阜県のふるさと教育表彰で最優秀賞(岐阜県ナンバーワン)をいただいています。校長室前の廊下にその表彰状が飾ってありますが、実はその表彰状を授与してくださった堀貴雄岐阜県教育長が来週31日に来校されます。目的は、「県下ナンバーワンのふるさと学習を行っているのは、いったいどんな生徒達たちなのか。ぜひ話がしたい」ということです。堀貴雄教育長は、「ぎふいのちの教育」を今年度の岐阜県教育の柱として、全ての子どもたちが安心して命を輝かせることができる学校づくりを目指してみえます。これは、SDGsの4番目の目標である「質の高い教育をみんなに」に通じています。そこで、少し世界の教育事情に目を向けてみましょう。

現在の日本の就学率(子どもが小学校に入学する割合)は99.9%で、調査に回答した108カ国の中でトップだそうです。日本では学校に通い、字を読んだり書いたりできることはごく当たり前のことですね。しかし、それが当たり前でない国があります。アフリカにあるエリトリアという国です。就学率は、なんと32.9%。子どもの3人に1人しか小学校に通えない国があることをみなさんはどう受け止めますか。私はエリトリアという国を知りませんでした。調べてみると、1993年にエチオピアから独立した新しい国で、独立してからもエチオピアとの戦争状態が続き、何十万人もの命が失われたということです。また、職業選択等の自由がなく、18歳になると全員が奴隷的公務員となり、男女問わず無期限の兵役訓練を受け、仕事も政府から与えられるという独裁国家であることが分かりました。独裁者にとっては、国民が賢く、自律するよりは、何も分からない他律的な大人に育てたほうが、都合がよいのでしょう。就学率が極端に低いというのもうなずける話です。

では、わたしたちはどうしていけばよいのでしょうか。幸せなことに、日本の学校には、自分たちの生活を自分たちの手で豊かにしていくための生徒会という自治組織があります。今日の生徒総会で決議した生徒会活動の一つ一つに対して全力で取り組み、「自考自築する」自律した若者の姿を、ホームページを通じて全世界に発信していきましょう。そして、いつの日かそれが世界標準になるとステキだなと、私は考えます。

「質の高い教育」とは、県教育長の言葉を借りれば、「全ての子どもが安心して命を輝かせることができる教育」であり、恵那北中学校においては、「求めて学び鍛え合う教育」のことです。そんな教育を実現するためには、「今日が楽しく明日が待ち遠しい学校」でなければいけません。後期も、「こんな自分になりたい。そのために今日はこれにチャレンジしたい」と、毎日、目的をもって学校に来る生徒達であふれる学校を目指していきます。保護者、地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



【生徒会選挙 立会演説会の様子】